

留学体験レポート

上松彩香

私が留学に行こうと思ったきっかけは、今までの大学生活に少し飽きを感じていたからだ。ここで半年過ごすよりは留学に行って新しいことを吸収したいと思っていた。それに私はもともと、海外に行くことに憧れがあった。その為、留学に行くことに迷いはなかった。とはいえ、この4か月の留学が私にとって初めての海外だった。その上、4か月も滞在することにとっても大きな不安を抱えていた。しかし、中国での留学生活は毎日発見があり、全てが新鮮で、こんなにも充実した4か月が過ごせるとは思ってもいなかった。

中国へ行く飛行機の中では中国語や英語で話しかけられ、中国語が分からず英語でやり取りしていた。また、大学へ着いたのは夜遅かった為、営業している店がほとんどなく大学内のマクドナルドへ行った。そこではメニューはもちろん、全て中国語で何が何だかわからず、指をさして注文するのでやっとだった。初日だけで、もっと勉強してくればよかったという後悔と、これから中国で生活していけるのかという不安でいっぱいだった。

授業が始まってからも、最初の1週間は聞き取れずに苦勞した。宿題が何なのかも分からずクラスの日本人同士で確認しあうことが何度かあった。授業ではメモを取っていれば話は先に進むし、聞いているだけでは後に残らない為、どのように授業を受ければいいのか悩んでいた。最初の1週間はパワーポイントや黒板に書かれたことは写真を撮り、必要最低限だけのメモを取り、あとはひたすら聞いて耳を慣らすようにした。そうすると2週目からは徐々に聞き取れるようになった。日本での中国語の勉強は、漢字を見て理解するような方法だった。しかし、聴力の授業では教科書などは見ずにCDを聞き本文の内容を理解するというような内容だった。つまり日本での勉強の仕方は全く通用せず、授業についていくのがやっとですごく苦勞した。その為、聴力の予習には多くの時間を割いていた。授業の受け方も予習の仕方も、自分に合った方法を探り早めに見つけることが授業に慣れていく近道だったのではないかと思う。

留学生活の中で、1番楽しかったのはクラスメイトや日本語学科の学生とお喋りしている時間だ。日本語学科の友達とは、日本や中国で流行している事を教えあったりしていた。日本語と中国語両方を使って話していたので、お互いに勉強になった。逆に、クラスメイトと話すと、最初は苦勞が多かった。クラスはテストで同じ中国語のレベルになるように分けられているため、相手の中国語のレベルが高すぎる、ということはあまりなかった。しかし自分が言ったある単語を相手が分からず、辞書で漢字を見せ、それを相手が辞書で調べやっと理解する、というような長い道のりがあった。困難は多かったが、クラスには様々な国の外国人がいるため、いろいろな国のことを知ることができた。初めの頃は、辞書を片手に話していてもごちなかったのに比べ、帰国する頃には難なく会話できるようになったこと

を考えると中国語の伸びを実感することができた。

この4か月間の北京での生活は私にとって、とても貴重な経験になった。留学は誰でもできる経験ではないし、金額も決して安くはなかったけれどそれ以上のことを学べた。だからこそ今までで最も充実した期間だったと感じる。中国や中国人に対してマイナスなイメージを持つ人が多い中、旅行ではなく留学という形で中国を訪れることでリアルな中国を見ることができた。この経験を今回で終わらせず、今後も中国語の上達を目指していきたい。そしてさらに中国への理解を深め、また中国を訪れたい。最後に、今回留学に行くことを許してくれた両親に感謝します。

